

調布市教育プラン策定検討委員会 第3回 で出た意見

日時：令和4年9月16日（金）

午後6時30分から8時30分

場所：教育会館301・302研修室

【施策8】青少年の健全育成

・調布で二十歳のつどいに参加することで、その後も調布市民として生きていくことの一つのステップになる。

・“夢”発表会については、自由にまちについて語るというよりは、こんなまちにしたいという方がよいのではないか。

・“夢”発表会について、総合的な時間で、地域課題を取り上げてまちづくりの学習はされているが、全ての学校でやろうということになると、自主的な学習を制約してしまうことになる。子どもたちが考えて提案することをできる学校にやってもらうことが望ましい。

・家庭教育セミナーについて、公民館とコラボして講師を呼んだり、呼ぶ手伝いをしてもらったりすることで、学校で実施することはできないのか。

・家庭教育セミナーは、具体的なセミナーの紹介であったり、手続きの簡略化であったり等、実情にあった、今のPTAの仕組みでもできるレベルに簡略化していただきたい。

・地域力が薄れているのは、世代を超えた交流が簡単でないことが要因の一つにあげられるだろう。同時に、同じ世代であっても、環境や考え方の違いからなかなか交流しにくいこともある。リーダーを育てると同時に、もう少し気軽に、子どもたちが何かやったという想いを残すことが大切だろう。「地域連携の中で、お祭りなどの地域行事にジュニアが企画・運営する枠を設ける」といったことが追加できるとよい。

・小学生でジュニアリーダーはやってしたが、中学生ではやらなくなることもある。高校になるとさらにその傾向が加速する。継続性のある仕組みを考えられるとよい。

【施策9】生涯学習社会への対応

・様々な学習事業のオンライン化・ハイブリッドが進んでいない。

・日本語を母語としない市民が、社会教育の様々な事業に参加しやすい工夫を行えるとよいのではないか。

・天体観測会や理科の実験等、魅力的なものを公民館ではやっている。こうした情報を学校の先生向けに出すような工夫があるとよい。

・企業や大学との連携も入れていくとよい。

- ・子どもたちが公民館や図書館等の社会教育施設があることを知ったとしても、利用する体験がないと、日常的な利用にはハードルが高いため、子どもたちと社会教育施設との接点を持つことを意識した書き方をできるとよいのではないか。
- ・今のところ部活動は学校の中でやっているが、それを地域の中で関わる、楽しんでいけるものにしていくという点でも、公民館などの社会教育施設で行われている様々な講座を子どもたちに公開していくことが重要ではないか
- ・社会教育施設は大人に対してだけではなく、子どもに対しても開いていくことが大切。大きな文化祭もよいが、小さなビブリオバトルのようなものを、世代を超えてやることで、自分だけで楽しむのとは違う面白さの発見につながる可能性が生まれる。世代を超えた交流ということを記載するとよいのではないか。

【施策10】地域ゆかりの文化の保存と継承

- ・図書館や公民館と同様、児童・生徒に博物館について知られていないことが勿体ない。学校との関係を強めていけるとよい。
- ・近隣の学校は遺跡や博物館に行けているが、遠い学校は行けていない。従来のエリアからもう少し広がり、遠い学校からでも行けるような仕組みや企画があるとよい。
- ・郷土博物館の出前授業や郷土博物館などの施設を訪れて展示物を見る等、調布ならではの視点で、社会教育施設と学校教育と連携させることが望ましい。記述に関しても「学校教育と連携」という書き方をしていただきたい。
- ・ふるさとに対する愛着というのは、世代に関係なく育むべきだろう
- ・市の内外の企業・団体・個人、様々なところと連携・協働し、調布の文化財に興味を持ってもらうことが必要ではないか。
- ・学校と施設の連携をどんどん進め、出前授業やホームページでの動画配信等、様々な媒体で知らせることができるとよい。